

平成 22 年 2 月 26 日

各 位

会社名 株式会社 **MORESCO**  
代表者名 取締役社長 中野正徳  
(コード番号 5018 東証第二部)  
問合せ先 広報室長 田中真人  
TEL 078 303 - 9058

## MORESCO 中期経営計画のお知らせ

この度、2010年度から2012年度までの3年間を対象としたMORESCOグループの中期経営計画を策定しましたので、その概要についてお知らせいたします。

### 1. 中期経営ビジョン

「小さくとも世界にきらりと光を放つMORESCOグループ」

- 水と油と高分子のスペシャリストとして社会に貢献する -

### 2. 中期経営方針

#### 2.1 時代の潮流を見据え、事業展開をスピードアップする

世界の情勢はかつてないスピードで変化しております。また、産業界も大きく変わっていきこうとしており、この変化の中味をしっかりと見極め、変化に対応すべく事業展開を進めてまいります。

#### 2.2 成長分野において世界に通用するオンリーワン製品を開発する

これまで取り組んで来た環境、情報関連分野における開発に加え、新しくエネルギーデバイス分野にも焦点をあて、ユーザーでの新しいニーズに対応できるオリジナリティーの高いオンリーワン製品の開発を目指します。

#### 2.3 得意領域での強みを生かしグローバルに事業展開する

国境を意識することなく、ニーズのあるところに積極的にMORESCO製品を展開していくため、将来に備えたネットワーク造りや人材の育成にも力を注ぎ、得意領域での強みを生かし世界にMORESCOの製品を届けます。

#### 2.4 生産プロセスの継続的な革新によりコスト競争力を強化する

品質を重視するとともに、生産プロセスの抜本的な見直しを継続して実施することにより、コストダウンによる競争力強化に取り組みます。また環境対応、再生ビジネスに関する設備投資にも積極的に対応します。

#### 2.5 グループ内外企業と連携し、ビジネスチャンスを広げる

当社がこれまで培ってきた技術や蓄積された情報を基に、グループ内外企業とのコミュニケーションネットワークを構築し、ビジネスチャンスに生かします。

#### 2.6 多様な人材が織り成す活力ある組織を目指す

ひとり一人の個性を尊重し、お互いの個性を認め合う職場づくりに努め、女性の登用や外国人が働きやすい職場の環境づくりにも積極的に取り組み、優れた人材を育成できる活力ある組織を目指します。

## 2.7 コンプライアンス・リスク管理を充実し、ステークホルダーの信頼を高める

内部統制システムを整備・充実するとともに、リスク管理体制の整備等コーポレートガバナンス体制を強化することにより、経営の健全性・透明性の確保と環境変化への迅速な対応により、企業の社会的責任を果たし、継続的な発展を目指します。

## 3. 中期経営計画

### 3.1 中期経営計画策定の考え方

#### 当社事業を取り巻く経済環境

リーマンショック以降、世界経済の同時減速による企業業績の急激な悪化により、設備投資の減少や雇用環境の悪化による個人消費の低迷など、実態経済にまで大きな影響が広がりました。その後、景気の回復傾向が見られているものの、そのペースは緩やかなものと予想されます。一方で中国をはじめとする新興国では、金融引き締め影響が懸念されながらも、力強い成長がなお続くものと思われれます。

また原材料面では世界経済の拡大基調が続けば、原油の需給が引き締まり、原油・ナフサ価格が徐々に上昇していくものと考えられ、生産効率の向上や高付加価値品へのシフトが引き続き求められるものと思われれます。

#### 営業展開

当社事業が深くかかわる自動車産業では成長著しい中国、インドネシア及びベトナムへの重点的取り組みを行い、営業ネットワークの整備に努めてまいります。また米国においても引き続き市場開拓を進めるほか、インドには将来に向けた布石を打ってまいります。

一方、国内自動車産業については大きな成長は見込まれないことから、ダイカスト用離型剤や水溶性切削油剤において新商品を拡販することにより営業基盤の更なる強化に努めます。

#### 新製品開発の推進

新製品開発では、「環境関連分野」と「情報関連分野」に加え、新たに「エネルギーデバイス分野」に重点をおき、世界に通用するオンリーワン製品の開発に取り組みます。

#### 製造設備の革新

抜本的な生産プロセスの革新による品質の安定、生産効率の向上、コストダウンの推進を目指し、国内工場をはじめグループ生産拠点での最適生産プロセスの構築を目指します。

### 3.2 売上高、利益計画（連結）

（単位：百万円）

	2009 年度見込	2010 年度	2011 年度	2012 年度
売上高	12,760	16,180	17,460	18,480
営業利益	440	1,020	1,420	1,830
経常利益	500	1,040	1,480	1,890
当期純利益	300	640	890	1,140
経常利益率	3.9%	6.4%	8.5%	10.2%

注) 2009 年度見込は当中期利益計画発表日現在の業績予想値です。

## 4. 重点事業戦略

### 4.1 重点事業戦略（各部門概要）

#### 特殊潤滑油部門

主たる需要分野である自動車産業においては、中国や東南アジアを中心としたグローバルな生産台数の増加が見込まれ、国内トップシェアの難燃性作動液、ダイカスト用潤滑剤を始め、水溶性切削油剤等を海外販売網の拡充によって積極的な販売展開を図ります。

一方、国内自動車生産では大きな伸びは期待できませんが、基盤技術に立脚した環境にやさしい潤滑剤の開発により、シェア拡大に取り組みます。

新しく展開する冷熱媒体（ブライン）部門では新製品開発に注力すると共に、品質管理、定期分析管理体制を確立させ製品供給面での充実を図ります。

#### 合成潤滑油部門

主力製品である高温用合成潤滑油は、自動車電装部品向けの高温度用軸受けグリースの原料として使用されており、高いシェアを有していることから、継続的な需要の拡大が期待されます。さらに、電子機器用などの新製品開発のスピードアップにより、高付加価値製品の比率を高め収益性の改善を図ります。

一方、ハードディスク表面潤滑剤は、ハードディスク駆動装置の大容量化技術の開発加速に伴い、これに対応できる新潤滑剤を市場投入し売上拡大に努めます。また次世代メディア用潤滑剤の先行開発を進め、ユーザーでの新規採用を目指します。

#### 素材部門

主力製品である流動パラフィン、今後益々広がりを見せるリチウムイオン電池の生産向け用途で継続した需要の伸びが期待されます。一方、これまでの主な用途である化粧品やポリスチレン向けは成熟した市場であり安定供給に努めます。

製造面では、コスト競争力の向上と品質の安定を図るため、設備・工程の改善を推進いたします。

#### ホットメルト接着剤部門

ホットメルト接着剤は溶剤を含まず環境負荷軽減に貢献できる接着剤として需要が拡大しており、自動車業界でもその機運が高まり、当社は昨年、耐熱性ホットメルトを市場投入し拡販を推進しています。さらにラベル等の粘着材分野においても高機能商品の開発により収益性の改善を目指します。

主力用途である大人用紙おむつ向けは堅調な需要が見込まれますが、価格競争は厳しさを増すものと想定されることから、環境負荷軽減等の顧客ニーズに対応した商品により市場確保に努めます。

また、ユーザーでの廃棄物削減を目指した新包装システムにより、増販に対応する能力増強投資を引き続き行う予定です。

#### 4.2 部門別売上高の計画（連結）

（単位：百万円）

	2009年度見込	2010年度	2011年度	2012年度
化学品事業	12,700	16,120	17,400	18,420
特殊潤滑油部門	(4,010)	(6,580)	(7,220)	(7,710)
合成潤滑油部門	(840)	(1,130)	(1,290)	(1,470)
素材部門	(3,170)	(3,490)	(3,630)	(3,680)
ホットメルト接着剤部門	(3,630)	(3,680)	(4,000)	(4,200)
その他	(1,050)	(1,240)	(1,260)	(1,360)
賃貸ビル事業	60	60	60	60
合計	12,760	16,180	17,460	18,480

注) 2009年度見込は当中期利益計画発表日現在の売上高予想値です。

### 5. 研究開発の重点

従来からの「環境関連分野」と「情報関連分野」に加え、新たに「エネルギーデバイス分野」に重点をおき、世界に通用するオンリーワン製品の開発に取り組みます。

#### 5.1 環境関連分野

自動車関連部品の製造工程で重要な役割を担う水系潤滑剤では、省資源、省エネルギーの実現を目指し、ロングライフで材料のリサイクルが可能な難燃性作動液や少量のスプレーで優れた離型性や潤滑性を発揮するダイカスト用潤滑剤などを開発し、国内および北米、アジアへの展開を図ります。

環境に優しく、生産性向上に貢献するホットメルト接着剤(有機溶剤を含まない)は、反応型をはじめとする高機能接着剤の開発に取り組み、自動車向けなどへの新たな展開をスタートしました。

また、水浄化関連装置は汚染物質の分解や殺菌などの優れた特性を活かし、航空機や自動車産業分野などの水浄化ニーズに応えます。

#### 5.2 情報関連分野

パソコンからデジタル家電等への使用が拡大するハードディスクドライブ関係分野では、1テラビットを超える高記録密度の実現に向け、高度の潤滑システムを支える新しいコンセプトの表面潤滑剤の開発を進めます。

また、ハードディスクの表面潤滑剤のほかにハードディスク基板の研磨用クーラントやハードディスクドライブの回転部分で使用されるFDB(動圧流体軸受)用の潤滑剤などハードディスクドライブにおいて重要な役割を担う潤滑剤を総合的に開発しています。

### 5.3 エネルギーデバイス分野

有機EL、太陽電池、リチウムイオン電池などに代表されるエネルギーデバイスの成長は目覚しく、その構成材料には一層の長寿命化や低コスト化が望まれています。

当社はホットメルト接着剤で培った高分子材料の変性技術や配合技術をベースに、各種デバイス用封止材などの研究開発を開始し、新エネルギー分野でのあらたな貢献を目指します。

## 6. 参考情報

当中期連結利益計画の基礎となっている**当社単体の中期利益計画**は下表の通りであります。

(単位：百万円)

	2009年度見込	2010年度	2011年度	2012年度
売上高	11,160	13,500	14,530	15,330
営業利益	260	590	900	1,230
経常利益	330	640	980	1,310
当期純利益	320	380	580	780
経常利益率	3.0%	4.7%	6.7%	8.5%

注) 2009年度見込は当中期利益計画発表日現在の業績予想値です。

以上